

世界的株価堅調の7月にNISAで投資された先は? ～既存投資家の人気はREIT、NISA向けファンドの 人気はオルタナティブなど～

商品企画部 松尾 健治
窪田 真美

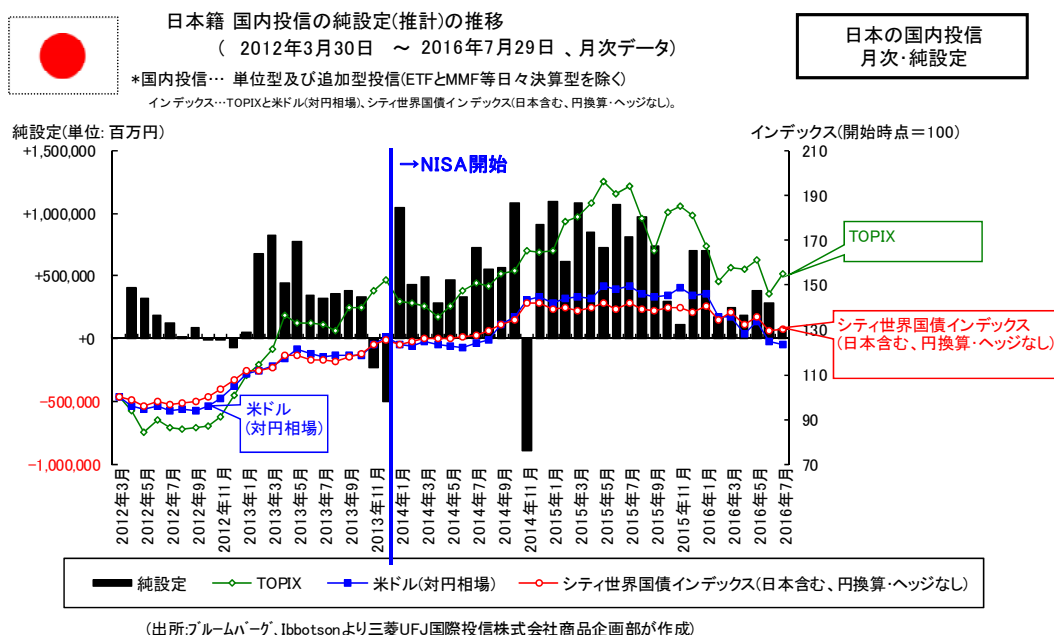
※三菱UFJ国際投信がお届けする、日本版ISAに関する情報を発信するコラムです。

世界的株価堅調の7月

2016年7月は世界的に株価堅調となった。前月6月がブレグジット(英国のEU離脱)ショックで世界的に株価軟調となった反発もある。米国の主要株価指数は過去最高値を更新した。日本の株式はこの米国株高のほか、7月10日の参院選で与党が大勝した事も好材料となっている。日経平均株価はブレグジットを受けた6月24日に14952.02円と2014年10月21日以来安値を付けたものの、7月21日には16810.22円と6月8日以来高値を付けた。尚、ブレグジットショックの震源地である英国の株式はFTSE100指数で見て6月24日&27日に急落したものの、6月28日以降反発して、7月27日には6750.43と2015年8月5日以来高値を付けた。

既存投資家の人気はREIT

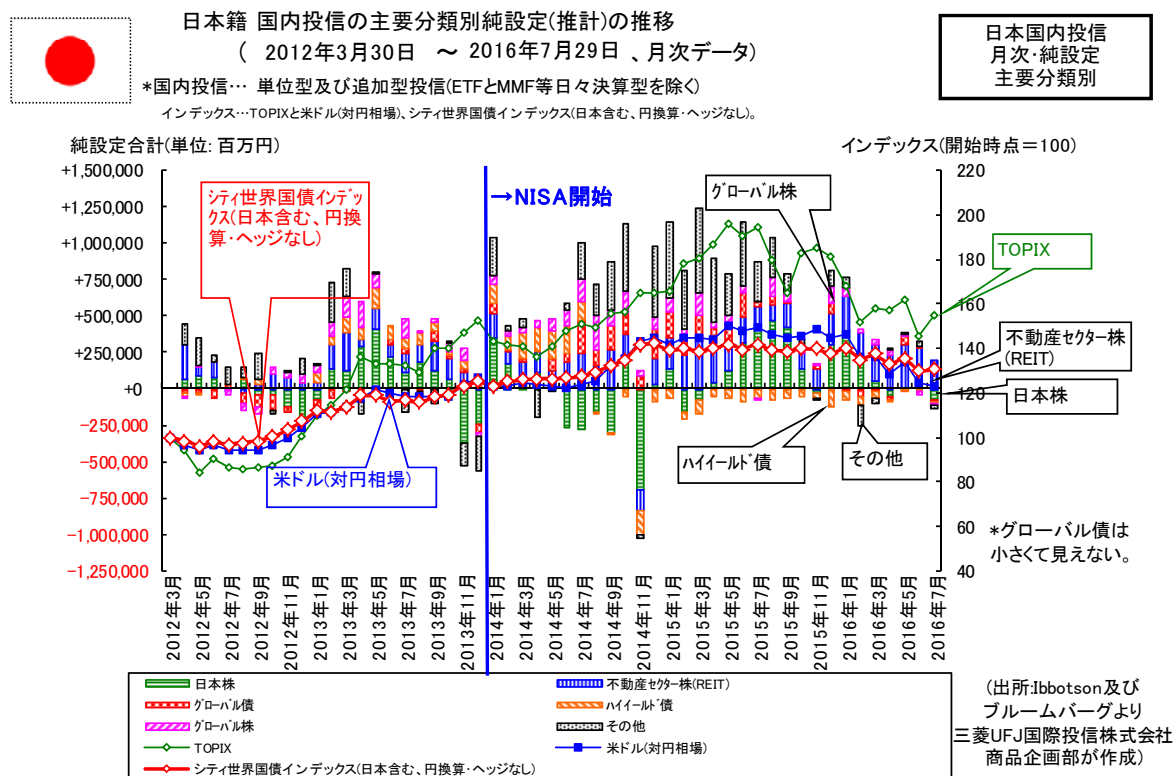
6月下旬の株安から一転して株高に転じた7月だが、NISAの投資動向にどのような影響があったのだろうか? 2016年7月末までのNISA最新投資動向を見る。投資家を既存投資家と投資の未経験者層(新規投資家)とに分け、既存投資家は投信全体の動向で代替し、投資の未経験者層(新規投資家)はNISA向けファンド(後述※参照)で代替して見る。まず既存投資家を示す投信全体の純設定(推計)だが、2016年7月は+714億円と、前月6月の+2886億円から4分の1に大幅減、2014年11月以来の低水準となった。2014年11月は前月末の日銀の追加金融緩和を受け急激な円安・株高で大きく値上がりした国内株式ファンドを中心に利益確定が進み、月間で-1兆円弱の大きな純流出となった月である。



投資対象(主要分類)別で見る。2016年6月に最も純設定の大きかったのは、前月に引き続き不動産セクター株(REIT)で、次いでアセットアロケーション慎重型、マルチオルタナティブ、米国債券だった(次頁グラフ参照 *主要分類…モーニングスター分類で2015年12月末の純資産の大きい上位5分類)。

不動産セクター株(REIT)は 20 カ月連続の資金純流入で、純流入 1 位は 2016 年 4 月から 4 カ月連続だ。ただ、全体の動向と同じで、7 月の純設定額は+2000 億円と、6 月の+2610 億円、5 月の+2950 億円から 2 カ月連続で鈍化している。

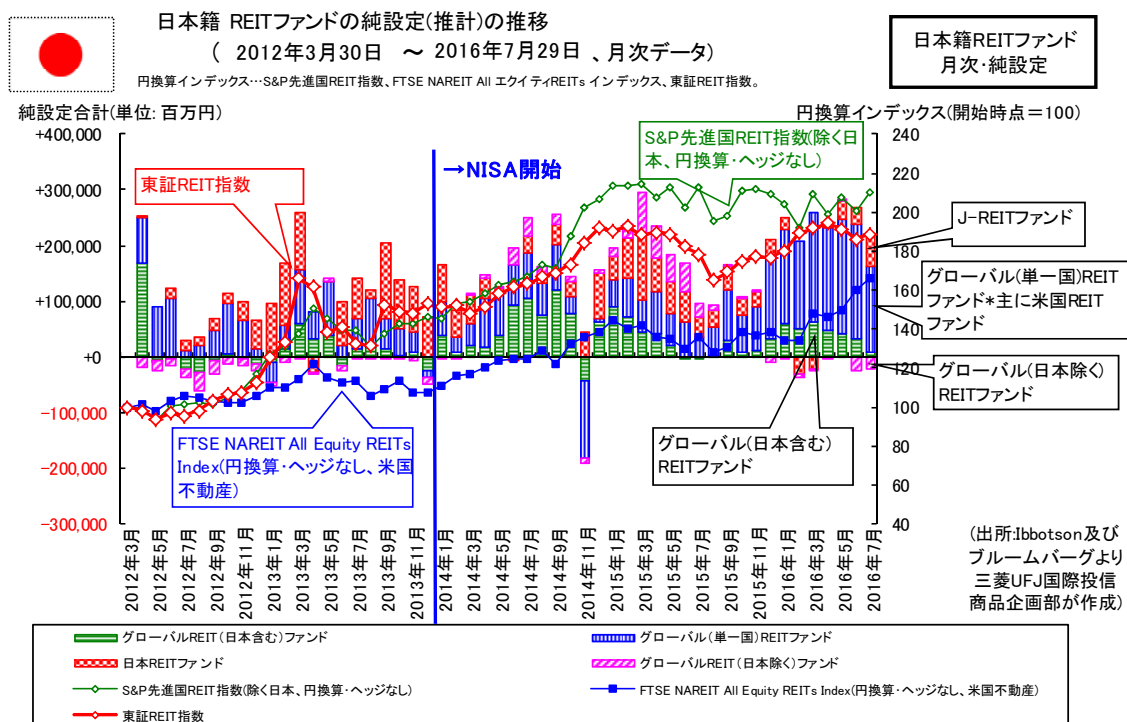
一方、日本株は 7 月に-744 億円と 2 カ月ぶりの純流出となった。ただ、2016 年(1~7 月)は+5905 億円となっている。2014 年(1~12 月)に-6000 億円強の純流出だったものの、2015 年(1~12 月)に+2.2 兆円弱の純流入(全 31 分類中 2 位)となり、その後の 2016 年も初めは好調な純流入だった。



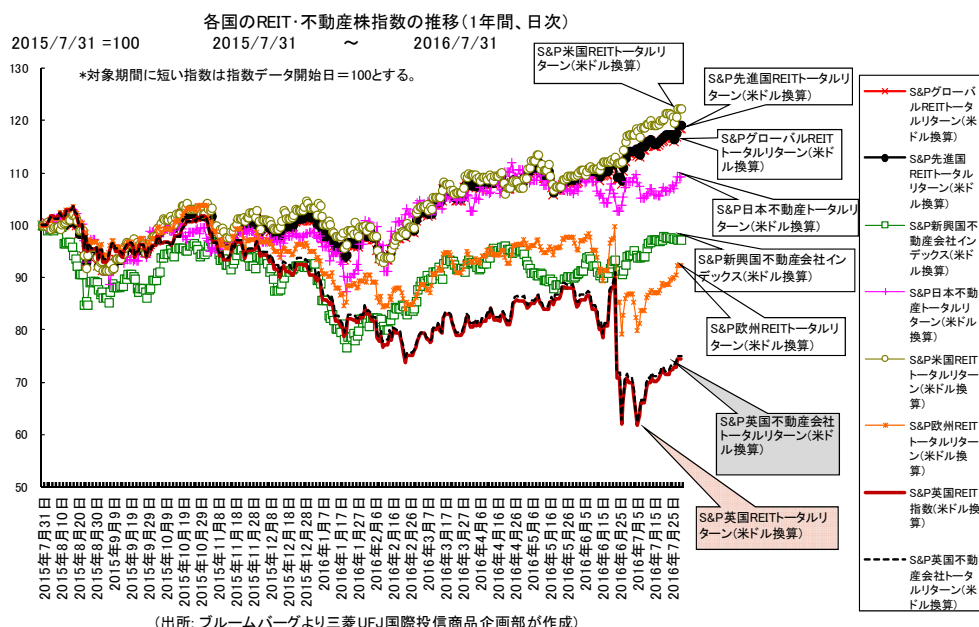
REIT の人気は一に米国 REIT、二に J-REIT ファンド

REIT についてはブレグジット(英国の EU 離脱)ショックで英国 REIT の価格が急落、不安視されていたが(2016 年 7 月 1 日付日本経済新聞朝刊~URL は後述[参考ホームページ])、「日銀のマイナス金利政策の導入で金融商品の利回りが低下する中、投資信託では不動産投資信託(REIT)で運用する商品への資金流入が顕著だ。特に、いわゆる分配金利回りの高い米国 REIT 投信の販売が突出している。4~6 月期は売れ筋上位 2 本で、全投信の販売額の 1 割にも達し、業界では『高分配ファンドの二大巨頭』(大手投信会社)などと呼ばれている。…(略)…。足元の基準価格で年間の分配金を割った分配金利回りを見ると、両投信とも 24% 近く(7 月末時点)と、年間の配当収入を大幅に上回っている。」(2016 年 8 月 5 日付日本経済新聞電子版~URL は後述[参考ホームページ])、と報じられている通りで、日本では動揺がほとんど見られなかった。

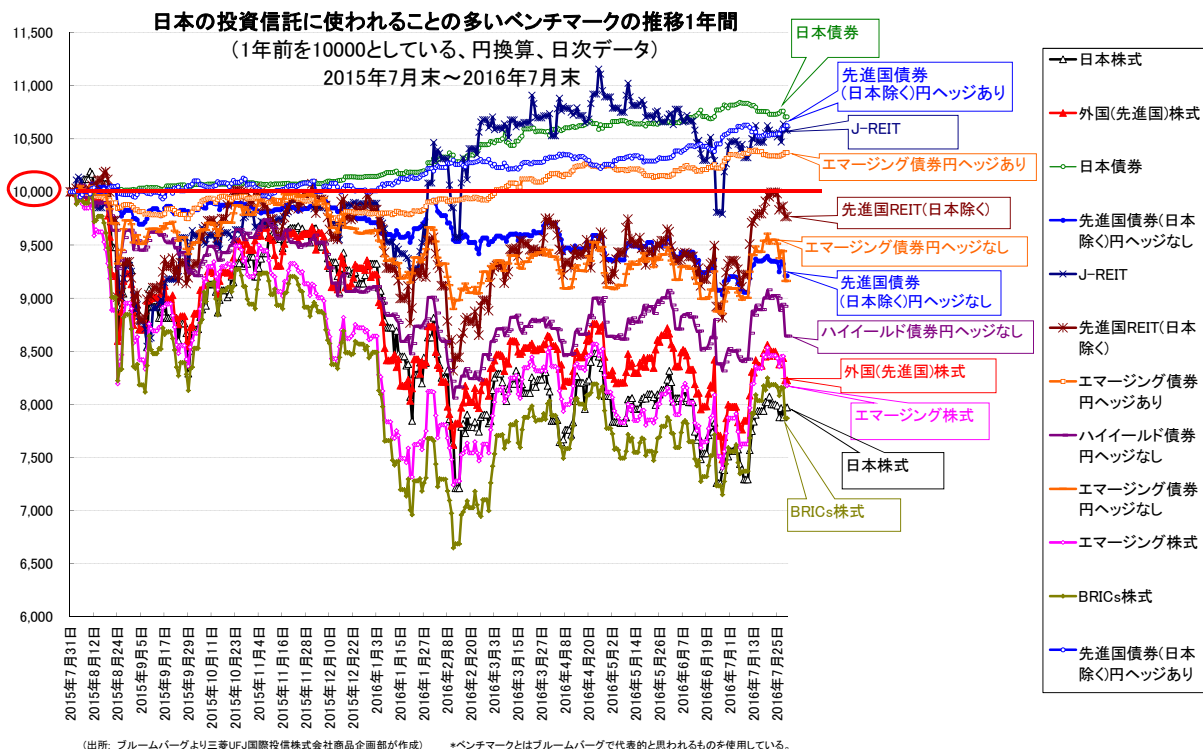
日本籍の REIT ファンドを対象国/地域別でみると、米国 REIT に投資するファンドは年始からの大きな純流入が 7 月も継続、日本の J-REIT ファンドも純流入が足元で増加となっている。一方、グローバル REIT ファンドは純流入が減少または純流出となっている。次頁は日本籍の REIT ファンドの純流出入動向である。英国籍ファンドについて詳細は 2016 年 7 月 25 日付日本版 ISA の道 その 150 も参照の事(URL は後述[参考ホームページ])。



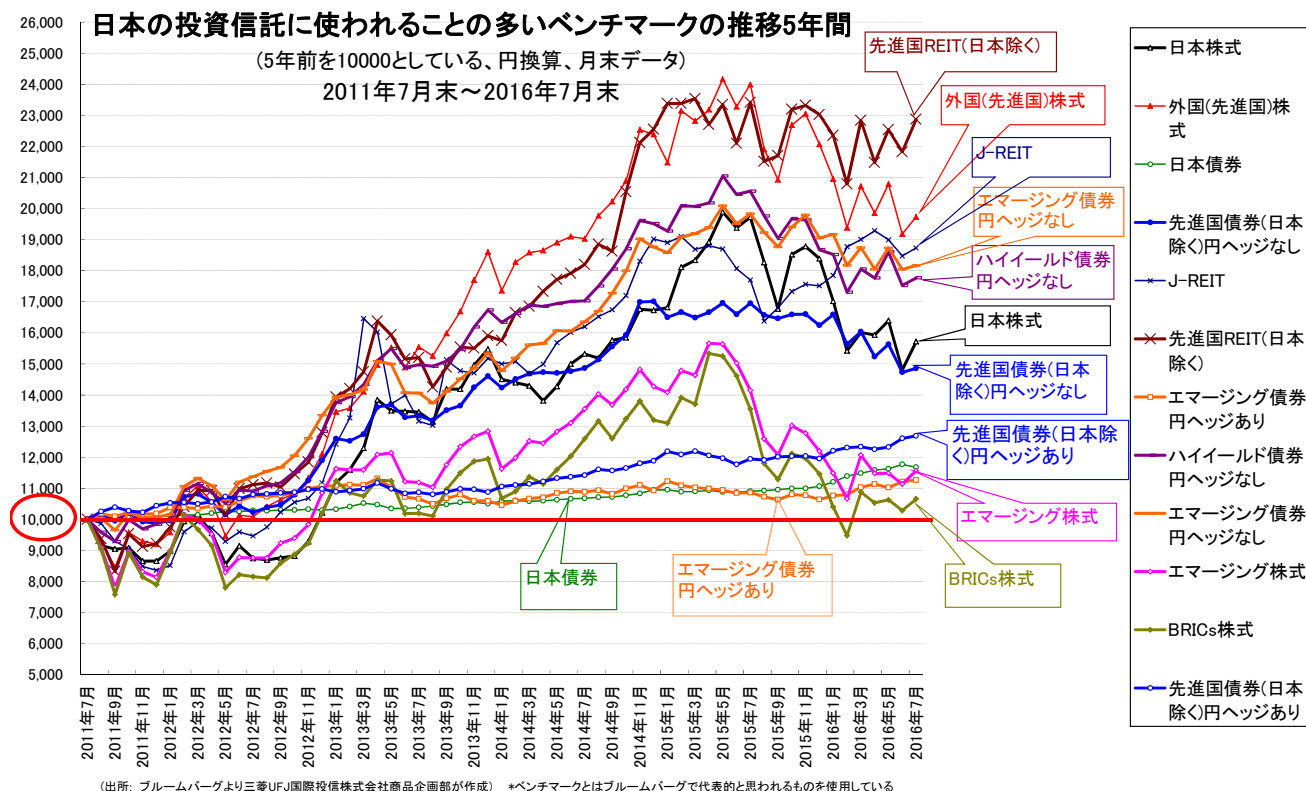
下記は各国の REIT・不動産株指数の推移(1 年間、日次)だが、米国や日本などの REIT 相場は堅調に推移、英国 REIT は急落反発している事がわかる。



日本の投信の純設定とパフォーマンスの関係はどうか? 投信に使われることの多いベンチマークのパフォーマンス推移を見た所、次頁の通り、1 年のパフォーマンスの好い順に、国内債券、先進国債券(日本除く)円ヘッジあり、J-REIT、エマージング債券円ヘッジあり、となっている(*グラフは 1 年前を 10000 としている、円換算、日次データ)。国内債券が最も好いが、国債利回りが 10 年までマイナス、国内債券インデックスの利回りがマイナスとなる中(URL は後述[参考ホームページ])、先進国債券(日本除く)円ヘッジありにも向かうのであろう。

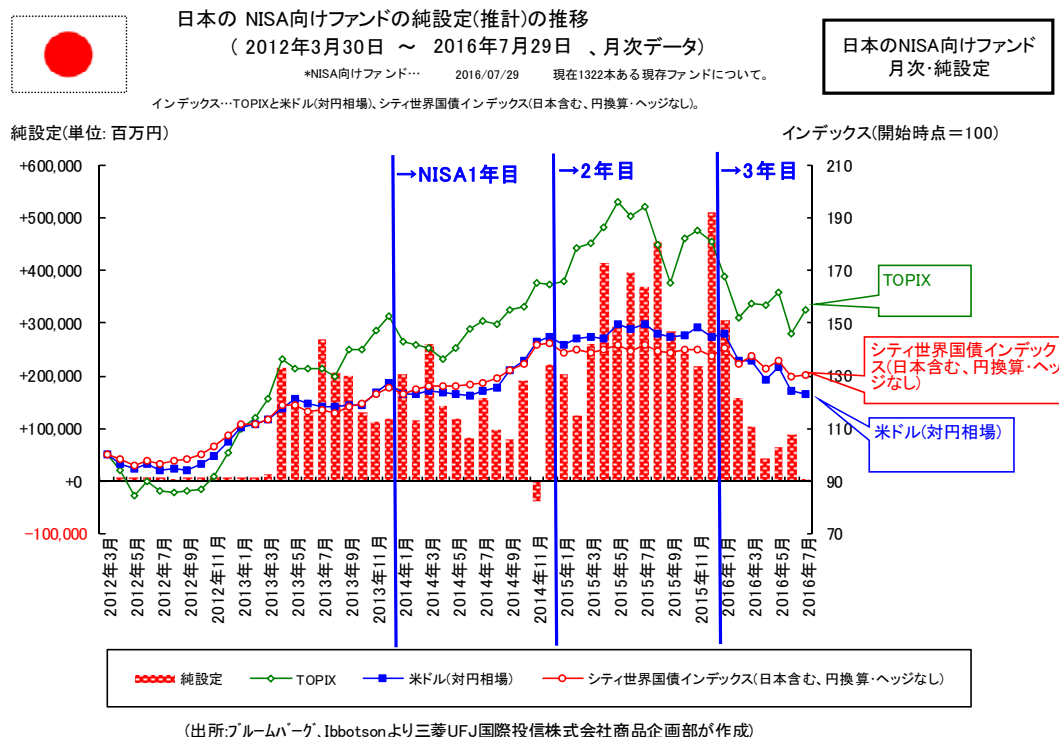


下記グラフは以上の5年のパフォーマンスである。パフォーマンスの好い順に、先進国REIT、先進国株式、J-REIT、エマーシング債円ヘッジなし、ハイイールド債円ヘッジなし、日本株式、先進国債券(日本除く)円ヘッジなし、先進国債券(日本除く)円ヘッジあり、日本債券、エマーシング株式となっている(*グラフは5年前を10000として、円換算、月末データ)。



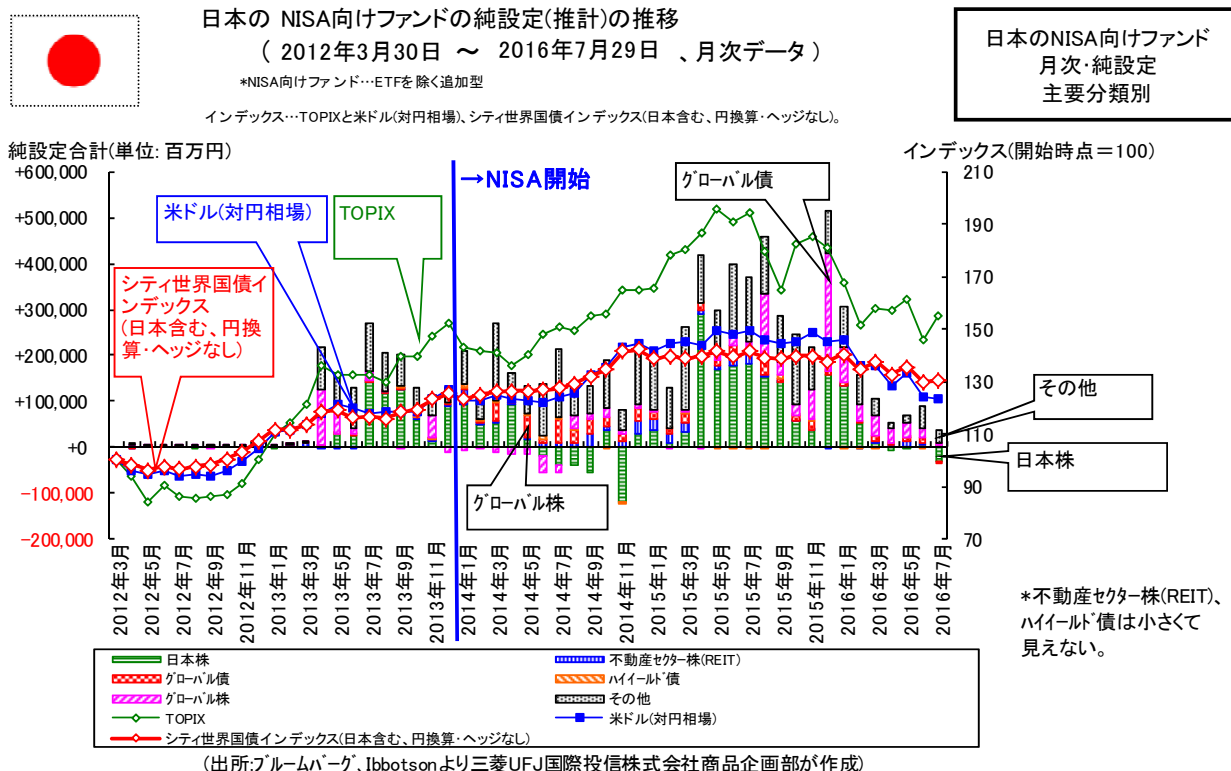
NISA 向けファンドの人気はオルタナティブなど

次に新規投資家を示す NISA 向けファンドの純設定を見る。下記グラフの通り、最新 2016 年 7 月は+25 億円と(*下記グラフでは小さくて見にくい)、20 カ月連続の資金純流入となるものの、純設定額は 2014 年 11 月(-409 億円)以来の小ささとなった。



※「NISA 向けファンド」…投資信託協会の言う「NISA 向けのファンド(*分配頻度が低いファンド、低コストのファンド、バランス型ファンド)」を参考にしながら(URL は後述[参考ホームページ])、2013 年 11 月末時点の契約型公募投信純資産が 1 兆円以上ある投信会社 17 社(*全 84 社の約 90%を占める)の株式投信(ETF を含む)で「NISA 向け」、「NISA 専用」、「NISA で選ぶ」、「NISA におすすめ」などと紹介されているファンド、それに加え、2013 年 4 月以降に設定された分配頻度が低いファンドやバランス型ファンドとしている。尚、2013 年 4 月以降と言うのは、NISA が含まれる税制改正(関連)法が 2013 年 3 月 30 日に成立・政省令公布されたため。また、単位型・限定追加型・年 1~2 回分配以外のファンド・DC・SMA・ミリオン(従業員積立投資プラン)を含めていない。ただ、同じシリーズが該当している場合は年 1~2 回以外を含めている。しかし、通貨選択型については、年 1~2 回以外を除いている(*マネー・プールは年 1~2 回でも除いている)。こうした「NISA 向けファンド」を抽出した所、2016 年 7 月 29 日時点で 1322 本となった。

この新規投資家と思われる投信の 2016 年 7 月純設定を、投資対象(主要分類)別に見る。前述した既存投資家と思われる国内投信全体での主要分類を用いると、7 月の純流入 1 位はマルチオルタナティブ(6 月 1 位)、2 位は日本マネープール(同 27 位)、3 位はその他株(同 28 位)、4 位はアセットアロケーション柔軟型(同 5 位)、5 位は米国債券(同 9 位)となっている(オルタナティブ及び日本マネープール、その他株、アセットアロケーションは、下記グラフで「その他」に含まれる)。個別ファンドでは日本株ブルベアファンドのベアや、2 位の「日本マネープール」に含まれる日本株ブルベアファンドの待機専用ファンドにも資金が流入している。2016 年 1 月頃まで全体の純設定の半分を占める純流入だった日本株は、2 カ月ぶりの純流出となった。



ネット証券での人気は日本株・グローバル株・REIT

最後に、各証券会社の集計結果も見る。2016年8月5日現在で、各社HP(口座保有者限定の閲覧サイトは除く)に公表されている最新NISA・投資信託動向だが、ランキングを掲載しているのはネット証券会社が多かった。ランキングの集計時期や方法は証券会社により異なるので、ここでは、ネット証券各社がHPで公表する最新の内容を紹介する。NISA口座における投資対象はどのようなものか傾向を見る参考としてほしい。個別ファンドなどの詳細はオリジナルのサイトを参照の事(URLは後述[参考ホームページ])。

<NISA 投資信託>

○マネックス証券は最新2016年7月のNISA口座における月間売れ筋ファンド(販売額)のベスト10を発表しており、1・3位は日本株ファンド、2位はグローバル株ファンド、4・5位は不動産セクター(REIT)ファンドとなっている(1・2位はインデックスファンド)。前月6月の1・3位は日本株ファンド、2位はグローバル株ファンド、4・5位は不動産セクター(REIT)ファンドとなっている(1・2位はインデックスファンド)だった。また週間の売れ筋ファンド(販売額)についても発表しており、最新週7月19日から7月22日までは、1～3位は日本株ファンド、2位はグローバル株ファンド、5位は不動産セクター(REIT)ファンドとなっている。参考まで、約一ヶ月前の6月27日から7月1日までは、1・4位はグローバル株ファンド、2・3位は日本株ファンド、5位は不動産セクター(REIT)ファンドとなっている。

○最大手であるSBI証券は週間のランキングを発表しており、最新週7月25日から7月29日までの取引をもとにしたNISAの投資信託・買付金額の1位はグローバル株ファンド、2・4位は日本株ファンド、3位はアセットアロケーションファンド、5位は不動産セクター(REIT)ファンド(1・2位はインデックスファンド)。一ヶ月前の6月27日から7月1日までの取引をもとにしたNISAの投資信託・買付金額の1・3位は日本株ファンド、2位はグローバル株ファンド、4位はアセットアロケーションファンド、5位は不動産セクター(REIT)ファンドだった。

○楽天証券も週間ランキングを発表しており、7月25日から7月29日までのNISA投資信託・買付金額の1位はグローバル株ファンド、2・5位は不動産セクター株(REIT)ファンド、3・4位は日本株ファンド(1・3位はインデックスファンド)。一ヶ月程前の6月27日から7月1日までのNISA投資信託・買付金額の1・4・5位は日本株ファンド、2位はグローバル株ファンド、3位は不動産セクター株(REIT)ファンドだった。

<ジュニア NISA 投資信託>

○SBI証券は週間のランキングを発表しており、最新週7月25日から7月29日までの取引をもとにしたジュニアNISAの投資信託・買付金額の1位は日本株ファンド、2位はグローバル株ファンド、3・4位は不動産セクター株(REIT)ファンド、5位は日本債ファンド。一ヶ月程前の6月27日から7月1日までの取引をもとにしたジュニアNISAの投資信託・買付金額の1・5位はグローバル株ファンド、2・4位は日本株ファンド、3位は不動産セクター株(REIT)ファンドだった。

<NISA 積立～2016年8月5日現在で入手できる最新(公表データは限られており、集計の時期や対象は各社で異なるのであくまで参考まで)>

○マネックス証券では、2016年7月のNISA月間積立契約件数ランキングを出しており、1・2位は日本株ファンド、3・4位はグローバル株ファンド、5位はアセットアロケーションファンドとなっている(*前月と順位は同じ。1・3・4位はインデックスファンド)。

○楽天証券は積立設定件数ランキングを週間で発表しており、7月25日から7月29日までのNISA口座では、1・5位はグローバル株ファンド、2・3位は日本株ファンド、4位は不動産セクター株(REIT)ファンドとなっている(*1・2・5位はインデックスファンド)。

ネット証券では、7月は日本株とグローバル株の人气が継続、積立と同様インデックスファンドの人气が見られた。

以上、世界的株価堅調の7月にNISAで投資された先を、既存投資家、新規投資家、ネット証券などの順で見えてきた。既存投資家の人気はREIT、NISA向けファンドの人气はオルタナティブなどだった。もちろん、今後を示すものではないが、こうした情報が個人投資家の参考になれば幸いである。

以 上

〔参考ホームページ〕

2016年7月1日付日本経済新聞朝刊「英不動産投信が急落 金融街シティー空洞化懸念」…

「http://www.nikkei.com/news/print-article/?R_FLG=0&bf=0&ng=DGXKZ004318280R00C16A7EA1000&uah=DF240620160348」、

2016年8月5日付日本経済新聞電子版「REIT投信へ資金集中、売れ筋2本で全投信販売額の1割」…

「<http://www.nikkei.com/my/#/article/DGXMZ005631060T00C16A8000000/>」、

2016年5月末のNOMURA-BP 総合利回り…「http://qr.nomuraholdings.com/QR/index/BPI/NOMURA_BPI_M_J.html」、

2016年7月25日付日本版ISAの道 その150「英国のEU 離脱ショックで英国不動産ファンドに解約停止が続出! 5月に過去最大の純流入で6月は過去最大の純流出、7月は…」…

「http://www.am.mufg.jp/text/oshirase_160725.pdf」、

2014年1月8日付投資信託協会メールマガジン「NISA 向けのファンドって?」…「<http://www.toushin.or.jp/mailmag/>」、

SBI証券のNISA ランキング・投資信託…「<https://www.sbisec.co.jp/>」、

楽天証券のNISA ランキング・投資信託…「https://www.rakuten-sec.co.jp/NISA/#NISA_ranking」、

マネックス証券のNISA 月間売れ筋ランキング・投資信託・販売金額…

「<https://fund.monex.co.jp/rankinglist#NISAMonthlySales>」。

本資料に関してご留意頂きたい事項

○当資料は日本版ISA(少額投資非課税制度、愛称「NISA/ニーサ」)に関する考え方や情報提供を目的として、三菱UFJ国際投信が作成したものです。当資料は投資勧誘を目的とするものではありません。

○当資料中の運用実績等に関するグラフ・数値等はあくまでも過去の実績であり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、税金、手数料等を考慮しておりませんので、投資者の皆様の実質的な投資成果を示すものではありません。市況の変動等により、方針通りの運用が行われない場合もあります。

○当資料の内容は作成時点のものであり、将来予告なく変更されることがあります。

○当資料は信頼できると判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性等を保証するものではありません。

○当資料に示す意見等は、特に断りのない限り当資料作成日現在の筆者の見解です。

○投資信託は、預金等や保険契約とは異なり、預金保険機構、保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。

○投資信託は値動きのある有価証券を投資対象としているため、当該資産の価格変動や為替相場の変動等により基準価額は変動します。従って投資元本が保証されているわけではなく、基準価額の下落により損失を被り、投資元本を割り込むことがあります。

○投資信託は、販売会社がお申込みの取扱いを行い委託会社が運用を行います。

○投資信託をご購入の場合は、販売会社よりお渡しする最新の投資信託説明書(交付目論見書)の内容を必ずご確認のうえ、ご自身でご判断ください。

○クローズド期間のある投資信託は、クローズド期間中は換金の請求を受け付けることができませんのでご注意ください。

○投資信託は、ご購入時・保有時・ご換金時に手数料等の費用をご負担いただく場合があります。

本資料中で使用している指数について

・東証株価指数(TOPIX)に関する知的財産権その他一切の権利は東京証券取引所に帰属します。

・東証REIT指数に関する知的財産権その他一切の権利は東京証券取引所に帰属します。

・シティ世界国債インデックスとは、Citigroup Index LLCにより開発、算出および公表されている、世界主要国の国債の総合収益率を各市場の時価総額で加重平均した債券インデックスです。

・「FTSE®」は、London Stock Exchange Groupの会社が所有する商標であり、NAREIT®はNational Association of Real Estate Investment Trusts(以下「NAREIT」)が所有する商標であり、そしてEPRA®はEuropean Public Real Estate Association(以下「EPRA」)が所有する商標であり、ライセンス契約に基づき、FTSE International Limited(以下「FTSE」)が使用します。

当該指数は、FTSEが算出を行います。FTSE、Euronext N.V.、NAREIT、もしくはEPRAは、本商品のスポンサー、保証、販売促進を行ってならず、さらにいかなる形においても本商品に関わっておらず、一切の責務を負うものではありません。インデックスの価格および構成リストにおける全ての知的所有権はFTSE、Euronext N.V.、NAREIT、そしてEPRAに帰属します。

・FTSE International Limited(「FTSE」)©FTSE。「FTSE®」はロンドン取引証券所グループ会社の登録商標であり、FTSE International Limitedは許可を得て使用しています。FTSE指数、FTSE格付け、またはその両方におけるすべての権利は、FTSE、そのライセンサー、またはその両方に付与されます。FTSEおよびライセンサーは、FTSE指数、FTSE格付け、もしくはその両方、または内在するデータにおける誤りや省略に対して責任を負わないものとします。FTSEの書面による同意がない限り、FTSEデータの再配布は禁止します。